

第1講 人間形成を捉えるための基本的な枠組み

1 国家と教育 —ポリティクスとしての教育

問い 教育によって（どこまで）人間改造（人間形成）が可能か。

極端な例（究極の例）を挙げなさい。

プラトンの考え方 『国家』

理想の国家：哲学者が王となるか、王が真実かつ十分に哲学するか

そこで、哲学者のための教育方法を語る・・・教育論の原型

- ・名誉支配体制 「支配欲と名誉欲の強い人」
- ・寡頭制 「金銭欲が強い人」
- ・民主制 「無規律を自由、浪費を太っ腹、破廉恥を男らしさと呼ぶ人間」
- ・僭主制 「野獣的な人間」

デューイのプラトン批判

- ・三つの階級が固定。個人の能動的傾向・組み合わせの認識の欠如。
多様性のみが変化や進歩を作り出す。
- ・個人自ら社会的役割を形成する可能性が考慮されていない。

論点は、人間性をどう捉えるか、教育の可能性をどこに見るか（政治と教育）

デューイ『民主主義と教育』より

2 「人間性」はいつどのようにして形成されるか—教育の可能性は？

中国の性善説。また徳治主義（政治的支配の根底は、徳である）

孟子（前 372—289）の忍ばざる心、惻隱の情。

荀子（前 298—235）の性悪説

アリストテレス（前 386—322）

「人は三つのものによって善であり有徳な者になる。生まれつきと習慣とロゴスである。

三つのものは互いに一致しなくてはならない」『政治学』より

J.コメニウス

「経験がなければ我々の有する悟性は、例えば文字の書かれない白紙のように空虚なものであって、行為したり、話したり、ものを認識したりすることもできない。幼少の頃、野獣に捕らえられ、動物の間で育てられたものは、その知力が動物以上の水準に達するものでないということは、幾多の実例によって示されている。教育は実に万人に対して必要なものである」コメニウス『大教授学』より

ジョン・ロック

「心は、いわば文字をまったく欠いた白紙で観念は少しもないと想定しよう。どのようにして心は観念を備えるようになるのか。人間の忙しく果てしない心想事成が心にほとんど限りなく多種多様に描いてきた、あの膨大な貯えを心はどこから得るか。どこから心は理知的な推理と知識のすべての材料をわがものとするのか。これに私は一語で経験からと答える」『人間知性論』（2-1-2）より